

1 6-1 超遠心機 (Beckman L-70 ultracentrifuge)

| | |
|-------|---------------------------|
| 管理講座 | 微生物学講座 |
| 設置場所 | 楠元3階 検査部門実験室5 (5306) |
| 管理責任者 | 吉村文信 |
| 電話番号 | 1319 |
| 機器名 | 超遠心機 ベックマン L-70 |

機器の概要 ローターを真空チャンバー内で高速回転させて生じる強い遠心力によって、タンパク質・DNA・RNAなどを分離精製する装置です。最高回転数が高速冷却遠心機(20,000 rpm 以下)より高く、ローターが回転するためのチャンバー内を真空に保って、ローターの空気摩擦による発熱を防ぐ構造を持つ特殊な遠心機です。

使用上の注意 新しく、又は、初めて使用する先生・学生諸君は、上記吉村、又は、同講座の経験者から、簡単な使用ガイダンスを受けてから使用することが必須です。
ローターの取扱に細心の注意を払ってください。使用簿に必ず記入すること。



16-2 超遠心機(Hitachi SCP85H)

| | |
|-------|---------------------|
| 管理講座 | 生化学講座 |
| 設置場所 | 楠元3階 検査部門実験室5(5306) |
| 管理責任者 | 金森孝雄 |
| 電話番号 | 楠元 1341 |

| | 設備 | 製造会社 | 規格 |
|------|------|------|--------|
| 設備内容 | 超遠心機 | 日立 | SCP85H |

機器の概要

液状のサンプルを遠心チューブと呼ばれるチューブに入れた後、このチューブをアングルローターまたはスイングローターに挿入し、チューブのセットされたローターを高速で回転させることにより、サンプル中の溶質または顆粒に遠心力を作用させ、サンプル中の溶質または顆粒の分析や分離を行う装置である。細胞抽出液をサンプルとした場合には、細胞内顆粒や細胞内小器官の分離・調製・分析が可能である。核酸やタンパク質の分離・分析も可能である。ローターを高速で回転させるため、ローターを設置するローター室は、冷却機により4°C付近まで冷却され、また真空ポンプを使用して減圧される。



使用上の注意

ローターは高速で回転するため、ローターがアンバランスにならないようサンプル量、サンプルチューブの挿入位置に注意して下さい。バランスの取れていないローターを回転させることは事故に繋がり危険です。チューブに加えるサンプル量も遠心時のサンプルの状態を想定して調節して下さい。ローター室は高真空になるため、ローターの蓋等が正しくセットされていない場合には、サンプルの噴出などがおこり、貴重なサンプルを失うと共に危険です。なお、使用に当たっては、備え付けのログブックに必要事項を記入してください。不明な点は確認して下さい。